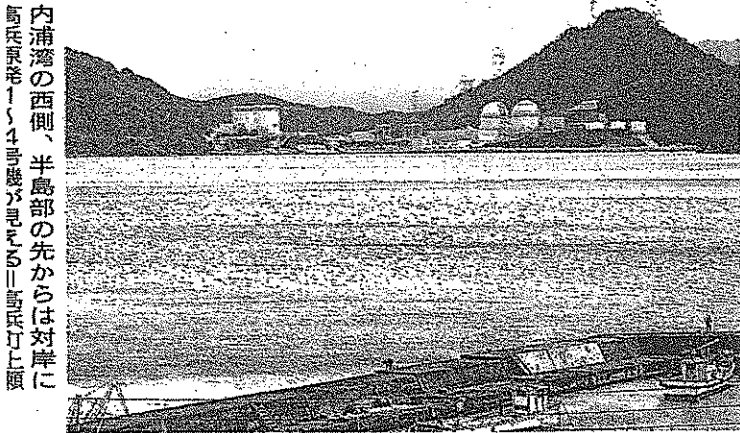


道路脆弱 孤立の不安

関西電力高浜原発3、4号機をめぐる福井地裁の運転差し止め仮処分決定が取り消され、関電は来年1月下旬の再稼働に向けて準備を急いでいる。しかし国の原子力防災会議で了承された広域避難計画は交通渋滞や道路整備の課題が指摘され、そもそも原発周辺の住民が安全に「優先避難」できるかもわからない。

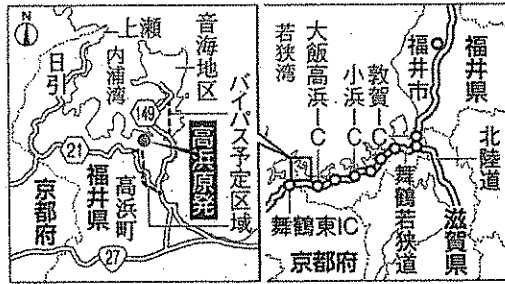
レポート 福井



内浦湾の西側、半島部の先からは対岸に高浜原発1、4号機が見える。高浜町上願

津波・土砂崩れの恐れ

高浜町は京都府舞鶴市に接し、高浜原発は音海など11集落が点在する内浦湾に面する。近辺の約7400人は県道を経て国道や舞鶴若狭道へ出るしかない。



バイパス完成は数年後

故が起きれば、まず半径5*圏の住民が優先的に避難を始め、30*圏の住民は建物の中へ退避する。広域避難計画では、内浦地区の住民が兵庫県三田市へ避難する場合、バスやマイカーなどで県道や国道を経由して舞鶴若狭道の舞鶴東インターチェンジへ向かう。

だが、頼みの県道は山道で、一部区間は海面から3*程度の高さしかなく、津波や土砂崩れで通行不能になる恐れがある。地域が孤立すれば船やヘリコプターでの避難も想定するが、津波や強風時は難しい。

内浦公民館の谷和彦館長(61)は「昔より道路は良くなったが、土砂崩れが起きることもあり、改良を早く進めてほしい。地区の全住民を対象に具体的な訓練も実施してほしい」と訴える。野瀬豊町長も「道路に脆弱な部分があり、町道も含めて手を加える必要がある」と認め、財政支援を国に求めている。

県は、国と事業者の負担で「原子力災害制圧道路」を整備している。高浜町では内浦地区の2区間でトンネルを掘って新たなバイパスを設け、改修を進めている。しかし湾の東側を通る音海地区からのバイパスの完成は2019年度、湾の西側から南下するバイパスの完成は20年度の予定だ。

原発から4*に住む東山幸弘さん(69)は「舞鶴道は片側1車線で国道も幅に余裕がない。降雪やトラブルで1台でも動けなくなればどうしようもない」と話す。「高浜町(人口約1万1千人)や舞鶴市(約8万7千人)の住民の半分以上が参加する大規模な訓練をして検証しなければ、避難計画に何の意味もない」

内浦地区の60代の男性は「土砂崩れが起こったら、高速の上で動けなくなったら……。いろいろ考えても誰も答えられない。考え始めたら避難計画は全部駄目になる」と不安がる。町内でも避難に不安を感じている人は多いはずだが、話題になることは少ないという。男性は「町の外にいれば原発を止めたらよいと簡単に言える。でも小さな町で、子や孫が原発関係で働いているから本音を話せない。恩恵をみんなが受けているから話題にできない」と話した。

(大久保直樹)

12/29 朝日